CS第1 テーマ2

<mark>テーマ2の目標</mark> プログラミング体験

プログラミングのために開発された技法を学ぶ

- 配列, 文字列 ^{教科書 3.1}
- 関数(サブルーチン) 教科書 3.2

レポート課題

- 課題2 循環小数
- 課題3 暗号解読に挑戦

本日の講義内容

- 1. 配列とその使い方 ^{宿題}
- 2. 文字列の処理方法 ^{宿題}

1. 配列

複数のデータを格納できる変数

復習:アニメーションプログラムの例

プログラム smile.rb

大きな数を各変数に格納(絵のデザイン)

画面への出力

```
t = 0
while t < 30
  puts(d1)
   puts(d2)
   puts(d3)
   puts(d4)
   puts(d5)
  puts(d6)
   puts(d7)
   puts(d8)
   puts(d9)
   puts(d10)
   puts()
  sleep(0.1)
   t = t + 1
end
```



めんどう



めんどうだけど これはしょうがない

1. 配列

複数のデータを格納できる変数

復習:アニメーションプログラムの例

プログラム smile.rb

大きな数を配列に格納

配列d

d[0]	
d[1]	
d[2]	
d[3]	
d[4]	
d[5]	
d[6]	
d[7]	
d[8]	
d[9]	

1. 配列 複数のデータを格納できる変数

復習:アニメーションプログラムの例

プログラム smile.rb 画面への出力

```
t = 0
while t < 30
   puts( d[ 0 ] )
                         t = 0
  puts( d[ 1 ] )
                          while t < 30
   puts( d[ 2 ] )
                            k = 0
                                                           for k in 0..9
   puts( d[ 3 ] )
                            while k < 10
   puts( d[ 4 ] )
                                                                puts( d[ k ] )
                              puts( d[ k ] )
   puts( d[ 5 ] )
                              k = k + 1
                                                           end
   puts( d[ 6 ] )
                            end
   puts( d[ 7 ] )
                            puts()
   puts( d[ 8 ] )
                            sleep(0.1)
   puts( d[ 9 ] )
                            t = t + 1
   puts()
                          end
  sleep(0.1)
   t = t + 1
                                                            先週習いたかった!!
end
```

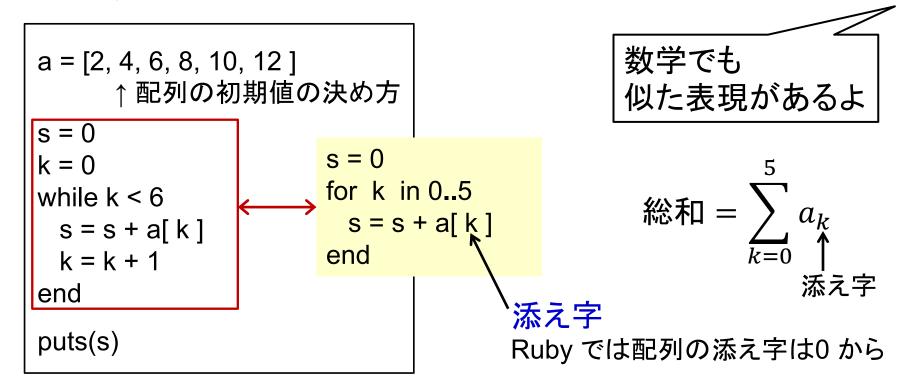
1. 配列

複数のデータを格納できる変数

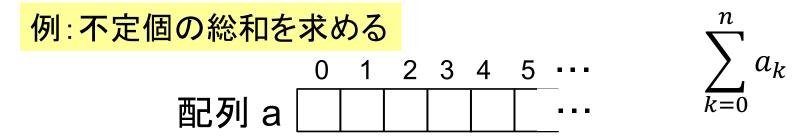
同種のデータを多数扱うときに便利

例:6個の総和を求める

プログラム sum6.rb

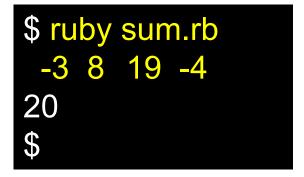


1. 配列 複数のデータを格納できる変数



プログラム sum.rb

```
a = gets().split.map(&:to_i)
n = a.length
#以下が総和の計算部分
s = 0
for k in 0..(n-1)
s = s + a[k]
end
puts(s)
```



実行例

個々に空白で区切る 改行がデータの終わり

整数を配列に入力する方法.(これは決まり文句)

「配列名 . length」で配列の要素数が得られる.

↑ ピリオド

1. 配列(Ruby での使い方)

例:最大値を求める

 $\max(a_0, a_1, ..., a_n)$

max.rb

```
a = gets().split.map(&:to_i)
n = a.length

# 以下が計算部分
max = -10000 # マイナス無限大と言える数
maxj = -1
for j in 0..(n-1)
```

宿題 (1)

```
end puts(max, maxj)
```

```
$ ruby max.rb
-3 8 19 -4
19
2
$
```

実行例

2. 文字列

文字が並んだもの(1文字の場合もある) Ruby では文字が格納された配列で表わす

n = str.length ← str に格納されている文字列の長さ

stringPrint.rb puts("文字列を入力しよう") str = gets().chomp n = str.length for i in 0..(n-1) puts(str[i]) end 文字列を入力する方法

```
$ ruby stringPrint.rb
文字列を入力しよう
Ice%%cream
I
c
e
%
Terminal の画面
```

補足:文字と文字コード ASCII

- ・文字もコンピュータ内では数字(正確には2進列)で表わされる
- 文字を2進列で表すこと(または表したもの)を 文字コードという
- 文字コードはいろいろあるが、英数字を表すもので 世界的で 最も普及しているのが ASCII である
 - ※仮名, 漢字は SJIS, EUC, Unicode 等で表わされている

(例)

ASCII を求める

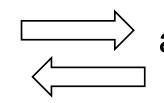
ss = "Cabcz"

aa = ss.unpack("C*")

文字列に直す

aa = [67, 97, 98, 99,122]

ss = aa.pack("C*")



2. 文字列(Ruby での使い方)

例:英小文字のみ画面に出す

英小文字のみ画面に出力するプログラムを作ろう!

abcPrint.rb

puts("文字列を入力しよう")
ss = gets().chomp
leng = ss.length
aa = ss.unpack("C*")

for i in 0..(leng-1)

宿題 (2)
end

ヒント: a の ASCII = 97

z Ø ASCII = 122



Terminal の画面

CS第1 レポート課題2(予告)

課題 循環小数の循環を止めよ!

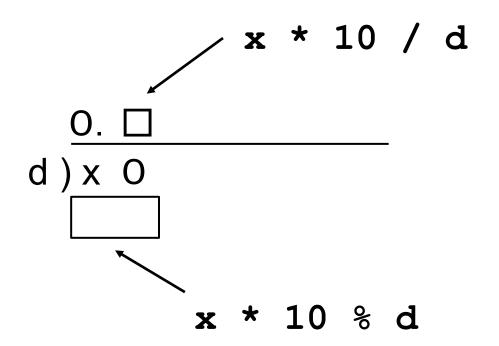
end

配列は同じようなデータを統一的に処理するには便利な道具だが、 それ以外にも賢い使い方がいくつかある. その例を考えてみよう.

```
junkan.rb
puts("分母 d を下さい")
d = gets().to i
                                       これだと無限に
print("1 / ", d, " を求めます¥n")
                                       小数を出し続ける
stop = 0; leng = 0; x = 1
while stop != 1
                                       場合がある!!
 x = x * 10
 q = x / d
 leng = leng + 1
 print(leng, ":", q, "¥n") ←
                                      画面に出力する別方法.
 sleep(0.5) # ゆっくり表示するため
                                     改行をしないので見栄え
 x = x \% d
                                      良く出力できる. 最後の
 if x == 0
                                      "¥n" は改行のコード.
   stop = 1
  end
```

プログラムの考え方

x/d を小数として表示する. ただし, x < d



まとめ: Ruby (1)

【演算子】

演算	使用例	意味
+	x + y	x と y の足し算
-	x - y	x から y の引き算
*	x * y	xとyの掛け算
1	x / y	x を y で割った商
%	x % y	x を y で割った余り
**	x ** y	x の y 乗

【関係演算子】

関係	使用例	意味
>=	x >= y	x は y より大きいかまたは等しい
>	x > y	x は y より大きい
==	x == y	x は y と等しい
!=	x != y	x は y は等しくない
<	x < y	x は y より小さい
<=	x <= y	x は y より小さいかまたは等しい

まとめ: Ruby (2)

【論理演算子】

論理記 号	使用例	意味
&&	x && y	xとyの論理積 (両方が真のとき真)
	x y	xとyの論理和(少なくとも一方が真のとき真)
!	!x	x の否定 (x が真のとき偽, x が偽のとき真)

まとめ: Ruby (3)

【配列】 初期設定 aa = [0,0,-5,4]
aa = Array.new(4) ← 要素数 4 の配列生成し aa とする
aa = Array.new(4,0) ← 各要素の初期値が 0
指定方法 aa[i] = aa の i 番目(添え字 i は 0 から)
コマンド aa.length = 配列 aa の長さ(=要素数)
※「添え字」は「インデックス」(index) ともいう.

コマンド s.length = 文字列列 s の長さ

a = s.unpack("C*") ← s の各文字を ASCII に直して 配列 a に格納する

s = a.pack("C*") ← 配列 a の各数字を文字に直して 文字列用変数 s に格納する

まとめ: Ruby (4)

【繰り返し文】

【条件分岐文】

```
if 条件式
        - · ·(A) · · ← 条件式の成立したときは · ·(A) · · を実行
else
        - · ·(B) · · ← そうでないときは · ·(B) · · を実行
end
省略可
```

まとめ: Ruby (5)

【入出力】

- puts(a, b, "hello", c) ← 変数 a, b の値, 文字列 hello, 変数 c の 値を改行しながら画面に表示する
- print(a,b, "hello", c, "¥n") ← 上と同様. ただし改行はしない. 空白 も空けない. 従って, 最後には改行 記号を画面に出すことで改行させる.
- ※ プログラムを書くときには、「¥」の代わりに「バックスラッシュ」をタイプする.
 - 1 print(a, b, "hello", c, "\n")
- ※ Mac ではバックスラッシュは Option キーと¥キーを同時に押すとタイプできる.
- ※ Windowsでは、「¥」と「バックスラッシュ」が同一の文字コードを持つので、 「¥」のままで問題ありません。

まとめ: Terminal command

使用例	意味
mv ~/Downloads/sub.rb .	Downloadsフォルダにあるsub.rb を現在いるフォルダ(.)に移動
m∨ ~/Downloads/*.rb .	Downloadsフォルダにある~.rb というファイルを全て現在いるフォルダ(.)に移動
open —a coteditor sub.rb	cotEditor で sub.rb を開く